

「海外実習」を通じた国際理解教育の試み

背景・目的

国際文化学科では、学科創設以来、毎年、海外で実習（海外実習、語学実習）を実施している。本教育研究は、この実習において、どうすれば参加学生の異文化理解、外国語理解が深まるか、国際問題など国際理解教育の諸課題を現場で体験的に学ばせるにはどんな方法が有効か、等を考察することを目的とするものである。今年度は、イギリス等のヨーロッパ諸国で海外実習と語学実習を一部合同で実施した。（8月16日～9月8日）。



実施内容

両実習とも、まずイギリス・マンチェスターで2週間ホームステイし、語学校 INTO MANCHESTER で各国留学生たちと一緒に英語を学んだ。語学校の活動の他、各自が多様な生活場面で異文化間コミュニケーションを実践し、多文化社会イギリスの生活に触れる機会を得た。

マンチェスターの他、リバプールやロンドンなどイギリスの諸都市やその博物館などで、イギリスとヨーロッパの歴史と現代の多様な文化や社会に触れた。その後1週間にわたり、パリとライデンを中心に、国境を越えたヨーロッパ大陸の文化、社会にも触れた。

海外実習の参加学生は、各自・各グループが

各地の街並、生活、歴史、文化、産業、環境などに関する課題について事前に下調べし、計画を立てて観察、行動し、実地の体験を通して課題の理解・考察を深めた。

次に語学実習の学生は、海外実習の学生よりも多くの時間をかけて英語学習とコミュニケーション実践に取り組み、また帰国後、実習で得た情報や体験などを記した活動マップを作成した。



結果及び考察

各実習には、ホームステイ、グループ活動、過去の実習参加者による事前講習会、現地在住日本人による現地講演会の開催など、様々な教育学習方法が組み込まれていた。これらによって、異文化や研究課題の理解が深まったと考えられ、また、諸方法の有効性、限界、注意点も再確認できたと言えよう。

実習の成果として、学生は、その諸活動を通して、自分で考える力を養い、状況適応力やコミュニケーション能力を高めることもできたと判断できる。また学生たちはマップを作る際、実習を的確かつ分かりやすく学内・学外に紹介するにはどうすればよいか、工夫を重ねたようである。以上の諸活動は、学生自身のキャリア形成に資するものとなったと考えられる。